

目標 音色、問いと答え、旋律に着目し、それぞれを比較しながら聴くことを通して和楽器の音楽のよさや演奏の特徴に気づき、曲想を味わって聴く力を育む。

時	学習活動の内容	指導上の留意点
①	<p>(ねらい)曲のイメージをもち、箏と尺八の音色の違いを感じ取ることができる。</p> <div data-bbox="231 488 858 607" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「春の海」の曲に対する自分のイメージをもち、それを全体で共有した後、箏と尺八の音色の違いを聴きとる活動を行う。</p> </div> <div data-bbox="252 656 539 696" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>曲名からイメージをもつ</p> </div> <div data-bbox="252 696 813 907" style="margin-left: 20px;"> <p>「静かな海」                  「春だから、誰もいなくてきれいなイメージ」                  「さわやか」                  「波が聞こえてきそう」</p> </div> <div data-bbox="252 913 624 954" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>曲を聴いた後のイメージをもつ</p> </div> <div data-bbox="308 954 807 1176" style="margin-left: 20px;"> <p>「和風」                  「お正月に流れていそう」                  「聴いてみたら楽しい曲だった」                  「盛り上がると思っていたけど、静かだった」                  「自分の海のイメージとは違った」                  「日本の楽器を使っていた」</p> </div> <div data-bbox="464 1227 1286 1285" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>(めあて)和楽器の音楽をきいて自分なりのイメージをもとう</p> </div> <div data-bbox="252 1323 579 1364" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>曲について知る(曲の解説)</p> </div> <p>・箏と尺八の音色を少しずつ聴いたり、音色に気付いたら手やカードを挙げたりしながら、それぞれの音色を確かめる。</p> <div data-bbox="427 1491 727 1644" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 150px;"> <p><b>POINT 2</b> 可視化する</p> </div> <div data-bbox="309 1659 774 2007" style="text-align: center;">  </div>	<p>○曲を聴く前に曲名だけからイメージを広げる活動をすることでより想像力を豊かにすることをねらう。</p> <p>○どんなイメージをもったのかをワークシートに書くことで、曲を聴いた後のイメージと比較しやすくなるようにする。</p> <div data-bbox="986 745 1315 898" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 150px;"> <p><b>POINT 1</b> イメージが変わった</p> </div> <p>○曲を最初から最後まで聴いて、感じたこと、気付いたことなどをワークシートに書き込むことで、曲を聴く前と聴いた後の自分のイメージの違いに気付くことができるようにする。</p> <p>○一人一人に箏と尺八のカードを渡し、聴こえた方の音色の楽器カードを挙げさせることで、感じたことを伝え合う手段とする。</p> <p>○箏と尺八の音色を聴く担当を決めて、自分の聴き取る音色が聴こえたら手を挙げるようにする。そのようにすることで、言葉以外でも聴き取ったことを伝え合う手段とする。</p> <div data-bbox="1010 1671 1337 1912" style="text-align: center;">  </div> <p>(楽器カード)</p>

② (ねらい) 箏と尺八の旋律の仕組み(問いと答え)を聞き取ることができる。

箏と尺八の旋律(問いと答え)に焦点を絞って、箏と尺八の掛け合いを聴きとる活動を行う。

T「よびかけをしているとか掛け合いがすごいって書いてあるふりかえりが多かったけど、曲の中にそのようなところがあった？」

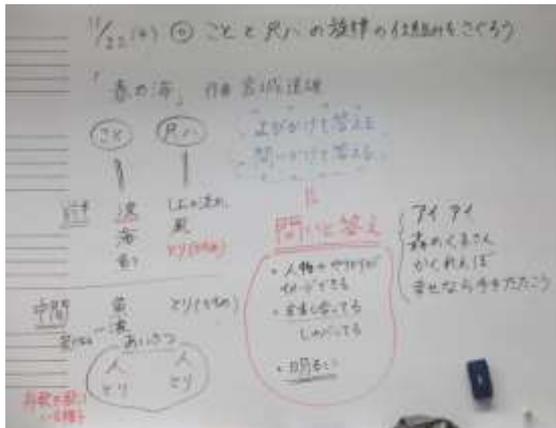
C「あった！」

T「じゃあ、曲を聴いて確かめてみよう。」



(めあて) ことと尺八の旋律の仕組みをさぐる

・箏と尺八の旋律が、それぞれ何を表しているのかをイメージしたり、既習曲で「問いと答え」が使われている曲を考えたりしながら、問いと答えについて理解していく。



○1時間目の子どものふりかえりからこの時間のねらいに迫ることのできる導入をする。

○一人一人に箏と尺八のカードを渡し、聴こえた方の音色のカードを挙げさせることで、感じたことを伝え合う手段とする。

○曲を聴く際は、最後まで聴くことはせず、部分的に何度も聴くようにする。

○問いと答えによって、曲の雰囲気などのようなものになるのかということも考えられるような声かけをする。

○問いと答えになっている部分を声に出して歌うことで、理解がより深まるようにする。



○問いと答えを感じ取りやすい既習曲(「幸せなら手をたたこう」「森のくまさん」「アイアイ」など)を提示する。

③ (ねらい) 和楽器の音楽独特の演奏の仕方(休符, 間の取り方)に気付き, それによって醸し出される雰囲気やよさを感じ取って聴くことができる。

一般的な「春の海」の演奏と旋律の伸び縮みのない5線譜通りに演奏した「春の海」の演奏を聴き比べて、演奏の仕方の違いを感じ取る活動を行う。

・部分的に曲を聴きながら「音色」や「問いと答え」を確認し、1,2時間目の学習を振り返る。

○1,2時間目を振り返ることで、3時間目の学習がより深まるようにする。(カードを使う。)

(めあて) 日本らしさを感じるひみつをみつけよう

T「初めてこの曲を聴いたとき、『和風』『日本ぽい』という感想が多かったんだけど、何でそう思ったのかな。」

C「和楽器が使われているから。」

C「箏と尺八」

T「楽器の音色から、そう感じたんだね。実は、まだ日本らしく聞こえるひみつがあるんです。今日はそれを探ってみましょう。」

A:一般的な演奏を聴く(箏と尺八)



2, 3回は聴いてみる

B:5線譜通りの演奏を聴く(ピアノとフルート)

(Aを聴いた感想)

「なめらか」「箏と尺八で演奏している」「ためている」

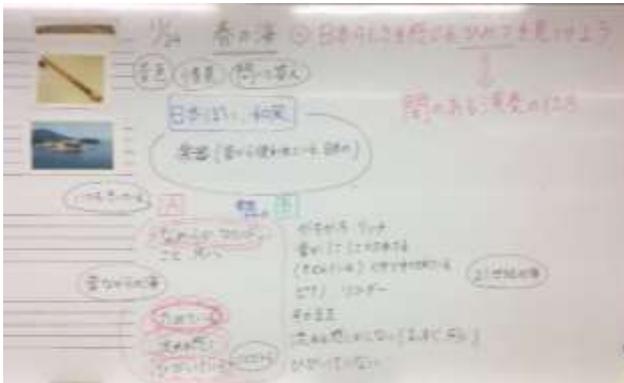
「流れている感じ」「音が響いている」

「いつも(授業で)聴いている演奏」

(Bを聴いた感想)

「がちがち」「音が1に1に切れている」「刻んでいる」

「流れる感じがしない」「そのまま」「リコーダー？」



・日本らしさのひみつは、「間のある演奏の仕方」であることを伝える。

・「春の海」を最初から最後まで聴く。

○1時間目の子どものふりかえりからこの時間のねらいに迫ることのできる導入をする。

**POINT 4**  
**比較することでの気づき**

○一般的な「春の海」の演奏と旋律の伸び縮みのない5線譜通りに演奏した「春の海」の演奏を聴き比べることで、間の有無をより感じとりやすくする。

○ピアノとフルートでの演奏を録音し、その音源と教材の音源とを聴き比べる。

○ペアや近くの人と感じたこと気付いたことを伝え合う時間を多くとることで、発表しやすい雰囲気を作る。

AとBを歌ってみることで、間の違いを感じ取りながら表現につなげる。

○子どもたちの言葉の中に、間に迫る言葉がいくつか出ているので、その気づきをしっかり認めながら、「間」という言葉を伝える。

○これまで学習してきた「音色」「問いと答え」「間」を意識しながら聴くことができるように声をかける。

～ポイント解説～

**POINT 1 「イメージが変わった」 曲を聴く前と後で・・・**

1時間目では、まず曲に対する興味をもつこと、そして曲に対するイメージを一人一人がしっかりもつことを大切にしたいと考えた。すぐに曲を聴くのではなく、「春の海」という曲名のみで、どのようなことをイメージするのかを伝え合う活動を行った。曲名からは、「静かな海」「春だから、誰もいなくてきれいなイメージ」

「さわやか」「波が聞こえてきそう」など、「春」と「海」からのイメージが多くあった。実際に曲を聴いてからの感想は、「和風」「お正月に流れていそう」「聴いてみたら楽しい曲だった」「盛り上がると思っていたけど、静かだった」「自分の海のイメージとは違った」「日本の楽器を使っていた」など、聴く前には出なかった、「日本らしさ」を感じる感想が増えていた。曲を聴いてイメージが変わることは当たり前のことであるが、まず聴く前にイメージをもつことで、実際に聴くときには、「どんな曲だろう」と興味を高めることができる。そして、曲を聴いた瞬間、イメージとの違いに驚き、「詳しく知りたい」という子ども達の学習意欲を高めることにもつながると考えている。

聴く曲	作曲家 (宮城 道雄)	聴く曲	作曲家 (宮城 道雄)	聴く曲	作曲家 (宮城 道雄)
春の海		春の海		春の海	
○「春の海」 曲のイメージ (題名から、どんなイメージをもちましたか?)	○曲を聴いてみて・・・	○「春の海」 曲のイメージ (題名から、どんなイメージをもちましたか?)	○曲を聴いてみて・・・	○「春の海」 曲のイメージ (題名から、どんなイメージをもちましたか?)	○曲を聴いてみて・・・
波の音 静かな感じ 明るい感じ	和風 日本の楽器を使おう スソの楽器でやろう 同じことをよく知っていた よな	明るい感じ	和風な感じ 笛のことなどよく使われている →日本の楽器が使われている	すすしいイメージ、さわやか 明るい、静かな感じ 波が聞こえるゆくりな曲	音の響き、ゆくり 和な感じ、笛が波のゆすぶる ゆめはゆくりとゆめをほめて なる 前奏が最後にもある ほけしいところが静かな感じが ある
ふりかえり (学習を通して思ったこと、曲の感想など)	ふりかえり (学習を通して思ったこと、曲の感想など)	ふりかえり (学習を通して思ったこと、曲の感想など)	ふりかえり (学習を通して思ったこと、曲の感想など)	ふりかえり (学習を通して思ったこと、曲の感想など)	ふりかえり (学習を通して思ったこと、曲の感想など)
僕は、最初は「春の海」と聞いて少し暗い感じだなと思いましたが、聞いてみると、日本らしさを感じました。日本の楽器を使っている感じが良かったです。	今日は、和楽器の音楽をきいて、最初は明るい感じの曲と思いましたが、意外に和風な感じの曲だった。のていいと思いましたが、ことと尺八の音色も知れたのでよかったです。	今日は、春の海をきいてみて、すこく和やかな感じがした。曲のイメージを考えたときとちがって、ながれり感じの曲だなと思いましたが、すきとおる感じでした。			

## POINT 2 「可視化する」 言葉以外の表現方法

これまでの既習曲にはない独特の雰囲気や響きを感じ取り、感じたことを言葉だけで伝えることは難しいと考え、言葉に加え他の表現方法も取り入れることを考えた。1時間目の箏と尺八の音色の違いを聴きとる学習では、手を挙げたり楽器カードを使ったりすることで、個々の気づきを表現できるようにした。また、伝え合うことに加え、手を挙げたりカードを使ったりすることで、自分自身でも気付いたこと感じたことを再確認する手段ともなる。

また、本学級は自分の考えを伝えることが苦手な子どもたちが多く、そのような子どもたちにとっても、段階的な学びを促す良い手立てとなった。

## POINT 3 「要素の焦点化」 音色→問いと答え→旋律

1つの題材の中には多くの要素が含まれており、どれも大切なものである。しかし、1つの題材で全てを学ぶことは難しく、また学びの深まりの妨げになってしまうこともあると考える。そこで、今回は、「音色」「問いと答え」「旋律」に絞り、さらに、1時間に1つの要素を中心に学習を進めることとした。この3つに絞った理由は、「春の海」の大きな特徴であると考えたからである。

まずは、音色から取り上げた。「春の海」を子どもたちが聴いて一番に感じるのは、楽器の音色であると考えたからである。それぞれの音色の違いが分かり、音色の特徴を知った上で学習を進めることは、聴く力を高めることにつながると考える。次に、中間部分の特徴的な問いと答えを、最後に旋律(間のある演奏)を取り上げた。「間」というのは、中学校で取り扱う要素ということもあり、1,2時間の学習を通して高めた聴く力を使いながら学べるように、本題材の最後に取り上げることとした。

#### POINT 4 「比較することでの気づき」

3時間目の「間のある演奏」に迫る手段として比較聴取を取り入れ、A:教材音源(箏と尺八)とB:ピアノとフルートで録音した間のない演奏の聴き比べをすることとした。始めにいつも聴いているAを流し、その後でBを流した。Bを聴いたときには、子どもたちの「あれ?」「ん?」という反応があり、「どこが違うのか」ということを集中して聴き取るうとする様子が見られた。AとBでは、旋律の伸び縮みが違うだけでなく、音色の違いもあるため、まずは音色に気付く子どもたちが多かった。また、Aだけを聴いたときや1回だけ比べて聴いたときは気付かなくても、AとBを比べて聴いたり、何度か聴いたりすることで、「間のある演奏」を聴きとる力が高まっていることが、子どもの言葉やワークシートから伺えた。

(子どものふりかえり)

- 普通に聴いているときは、特に何も感じなかったのに、きちんと2つに分けて聴くことで、しっかりと分かることができたのでよかったです。
- 最後にもう1度考えながら聴いてみると、1つ1つの音の間にためがあるのが分かりました。
- 他にも日本らしさを感じるひみつがあるんじゃないかなと思いました。
- 楽器が変わるだけで、こんなにも曲の雰囲気が変わるなんてすごいと思いました。
- ピアノだとできない(やりにくい)のばす音もうまくできていて、Aの方がいいと思いました。
- 間があることで情景がうかびやすくなると思いました。情景がうかぶ演奏は大切だと思いました。

#### 成果と課題:教科構想に基づいて本実践を振り返る

音楽科では、資質・能力を育む「深い学び」の実現のために、「ねらいに即した音楽を形づくっている要素に焦点をあてた授業展開の工夫」を一番にあげている。今回は、「音色」「問いと答え」に加え「旋律(間)」を取り上げた。小学校学習指導要領には、指導すべき要素として「間」は取り上げられていないが、和楽器の音楽の演奏の仕方の特徴として、「間のある演奏」は欠かせないものであり、子どもたちに感じさせたいと考え取り入れることとした。間のある演奏に気付かせるための手段として、2種類の音源を準備し聴き比べる活動をした。始めは、同じ楽器編成で同じ演奏者の演奏を録音し準備したが、実際、子どもたちに聴かせたのは、箏と尺八、ピアノとフルートの音源である。楽器が違うことで、まずは音色に注目する子どもが多かったが、何度も聴き比べることで「間のある演奏」に気づき、また、和楽器だからこそ「間のある演奏」が効果的にできているということを感じた子どももいた。

今回、要素を「音色」「問いと答え」「旋律(間)」に絞り、提示する順番、提示する方法も工夫したことで、曲想を味わって聴く力を高めることができたと考えている。

課題としては、1時間目にもっと曲に対するイメージをもたせ、3時間を通して「この曲のことをもっと知りたい。」という意欲を持続させることである。2時間目、3時間目ともに、子どものふりかえりを基に課題を設定しているが、教師からの提示になっているため、子どもたちの興味・関心が高まる工夫が必要であると感じた。次に、使用する教材についてである。今回は大学と連携して独自に教材開発(音源作り)を行い授業で使用している。子どもの学びを深める大事なものであるため、常にこだわって準備していきたいと考えている。

3学期の最初の音楽の授業で子どもたちが、「お正月にたくさん春の海を聴きました!」と伝えてくる場面があった。これからも、授業だけで終わることのない、生活につながる音楽を目指していきたい。

(上代 美樹)